東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

プロバスだより

2017年11月9日発行

http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp

第264号

編集・発行：情報委員会

継続は力なり！

2017～18年度 テーマ　プロバスクラブの道に終わりなし　生涯現役でクラブライフを楽しもう

第 264 回例会

日　時：平成 29 年 10 月 12 日(木) 12:30～14:30
場　所：八王子エルシィ
出席者：53 名　出席率 82.8%
（会員総数 68 名 休会 4 名　欠席 11 名）

会食とハッピーコイン披露

山口例会委員長の進行で会食に入り、馬場副会長からハッピーコイン 14 件の披露があった。
（4 ページに掲載）

1. 開　会　　山口例会委員長

第 264 回例会開催を告げ、配付資料の確認。

2. 会 長 挨 拶　　武田会長

皆様、こんにちは。10 月に入って真夏日が続くという異常さ、沖縄では 6 月 20 日から 81 日間連続しているということで、観測史上初めてとのこと。どうやら、日本の四季の美しさが無くなるのではないかと心配になりますね。

10 月 1 日、八王子市市制施行 100 周年記念式典に出席してまいりました。様々な分野で活動されている大勢のプロバス会員の皆さんにもお会いしました。

さて、今日は、先月の例会でお話ししました、クラブの財政に関する皆様の意識アンケート調査について協力のお願いをしたいと思います。

後ほど、内山幹事から配布資料について発表していただきます。

今月の卓話は大澤会員による「野菜をめぐる情勢～野菜は需給の優等生～」ということで、どのようなお話か楽しみです。なお、先月の井上会員の卓話は「プロバスだより」では編集の都合上、一部割愛させていただきました。

また、ご案内ですが、竹元会員がテレビ出演されます。10 月 17 日(火)19 時～TBS 新番組「教えてもらう前と後」**『池上彰の日本のタブー皇室・北朝鮮・お金』**。

このように会員皆様の活動、絵画・写真の展覧会、作品展示会、演奏会や講演会など、知っていただきたい情報がございましたら情報委員会までお知らせ下さい。

来月は、ご案内の通り野外研修です。

それでは、本日もプロバスライフの時間を楽しくお過ごしください。

3. バースデーカード贈呈

武田会長より池田会員手作りのバースデーカードが 10 月生まれの会員に贈られました。

「おめでとうございます」

左から山口、戸田、大野幸、立川、岡本、(武田会長)土井俊玄、古川、矢島の 8 会員（敬称略）

4. 卓　話

「野菜をめぐる情勢～野菜は需給の優等生～」

大澤敬之会員

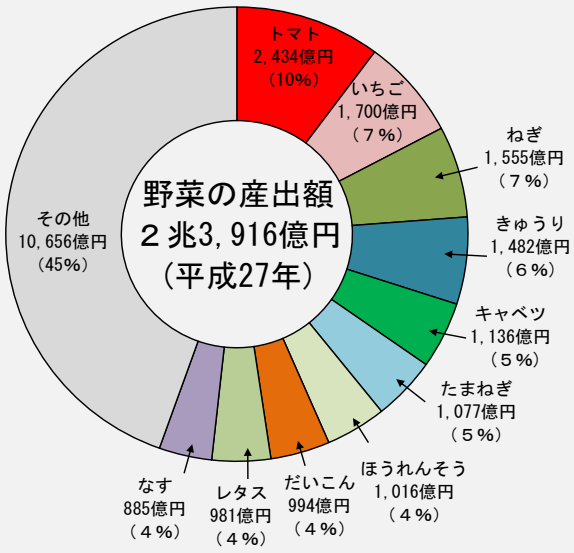
家業の農業を継ぐつもりで農業高校で園芸を学びましたが、農業の勉強をするにつれ、我が家の耕地面積では、自営の農業を継ぐのは無理と気づいて、就職することとし、農林省（現農林水産省）に勤務

し、40 年間奉職しました。その間、約 30 年余りを野菜に関係する部署に勤務しました。

野菜の需給動向は、国産品は約 8 割で、輸入品が約 2 割と他の農産品と比較しても需給率は高めに推移している。輸入品のうち生鮮野菜では、タマネギ（8 割が中国産）が全体の 4 割を占め、加工品ではトマトが全体の 4 割(2 割が中国産)を占めている。

国産野菜の産出額は 2 兆円強であり、我が国の農業産出額の 3 割程度を占めている。野菜の作付面積は、約 42 万 ha、生産量は約 1,200 万トンであり、横ばい傾向が続いている。しかも、近年、農業従事者が減少していることに加え、65 歳以上の従事者が約 4 割を占めるなど高齢化が進行している。

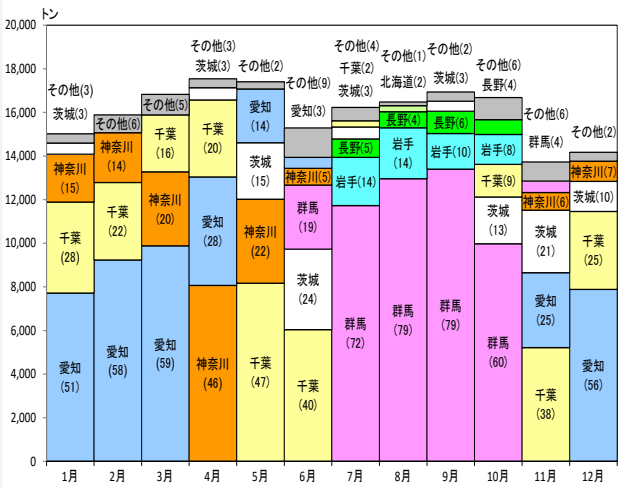
○ 野菜の産出額の品目別割合（平成 27 年）



（資料：農林水産省「生産農業所得統計」）

野菜の生産・出荷は、長い日本列島をうまく使って、産地リレーにより、季節によって産地を切り替えながら、野菜の安定供給が行われている。キャベツを例にとって見ると、春先には、神奈川県産(三浦半島)・千葉県産（銚子）が、夏には、高冷地の群馬県産（嬬恋村）が、秋には、千葉県・茨城県産、冬には、愛知県産（渥美半島）・千葉県産が出回る。

○ キャベツの月別・産地別入荷実績



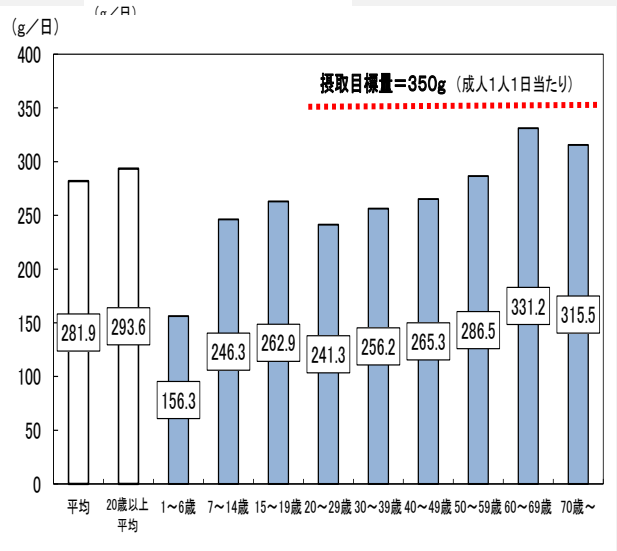
（平成 28 年東京都中央卸売市場計）

（資料：東京都中央卸売市場ホームページ「市場統計情報」）

野菜の消費量は減少傾向で推移しており、年間 1 人当たり 93kg 程度である。世代別に野菜摂取量をみると、すべての年代で 1 日当たり摂取目標量 350g に達しておらず、特に 20 歳代～30 歳代の不足が目立っている。

農林水産省や厚生労働省は、成人や児童等の野菜摂取量の少ない世代を対象に、料理、調理、特性等の産地側からの情報発信を通じ、食育と一体的に野菜の消費拡大対策に取り組んでいる。

○ 世代別野菜摂取量



（資料：厚生労働省「平成 27 年国民健康・栄養調査」）

5. 内山幹事報告

お手元に配付いたしましたアンケートへのご記入をされる前に、添付されております別表について少し説明させていただきます。この別表は、過去6年間の決算書に基づき作成したものです。

アンケートのお願いにも書いてありますが、会費収入で諸活動の支出を賄っていくのが原則だとの思いもありまして、この別表を作成した次第です。

別表は、会費収入に対して各支出項目が、会費の何パーセントを占めているのかを視覚的に捉えたものです。特に表の黄色く塗ってある部分にご注目していただきたいと存じます。

このような財政状況をご勘案のうえ、アンケートに忌憚のないご意見をお書きいただき、11月例会日までにご提出をお願い致します。

6. 各委員会活動報告

(1) 例会委員会　　山口委員長

例会の出席状況は出席53名、欠席11名、休会4名で出席率は82.8%でした。全員から連絡を頂きましたが欠席者が多いことが若干気になります。

(2) 情報委員会　　山崎委員長

・「プロバスだより263号」をお手元にお届けしました。今月号の編集は情報委員の有田会員が担当して下さいました。ご一読下さい。

・情報委員会からのお知らせを配りました。寄稿、同好会からのお知らせ、展覧会やコンサートのお知らせ、写真等皆様からの原稿をお待ちしております。

(3) 会員委員会　　戸田委員長

ぜひ新入会員のご紹介をお願い致します。

(4) 研修委員会　　池田副委員長

11月例会は野外研修になります。大勢の参加申し込み、ありがとうございます。集合場所が従来とは変わり、八王子駅北口ヨドバシカメラ向かい側になります。参加される方は、お配りしたプリントを確認してください。

(5) 地域奉仕委員会　　永井委員長

皆様のおかげで、生涯学習サロンのプログラムが出来上がりました。

2月22日の開講式の特別講話は、橋本五郎先生に「よりよく生きるとは」という話をして頂きます。

3月8日第1週は、久野会員による「医療連携」、山形会員による「歌声サロン」、田中会員による「地球一周の船旅・その後」、内田氏（税理士）による「相続」の話です。

3月22日第2週は、渋谷会員による「習近平の中国」、梶原氏（フラダンス同好会の先生）による「フラダンス」、立川会員による「懐かしの映画と音楽」、下山会員による「和算」の話です。

4月12日第3週は、杉山会員による「命を共に語り合う」、池田会員による「絵手紙」、大澤会員による「野菜の生産・流通」、宮崎会員による「八王子まつり」の話になっています。

5月10日の閉講式の特別講話は竹元会員に「皇室のお姿」の話をしていただくことになりました。

4月26日の野外サロンは、足利を訪ねて「足利学校」、「フラワーパーク」のほかに「医薬品製造会社シミック足利工場」を見学する予定です。多くの方の参加を期待しています。

(6) 交流担当　　浅川担当理事

11月の東日本ブロック交流会には、たくさんのクラブから、参加の知らせが入ってきています。

当クラブからも出来るだけ大勢の方に、出席いただき、プロバスの輪を拡げるために、よろしくお願いします。

今月の宇宙の学校

10月1日に東京工科大学で実施。テーマは「コマとスポイトロケット」でしたが、プロバスクラブの田中会員が、1部屋の指導員を務めました。子供相手になかなかの好評でした。

＜回っている車輪は1本でつるしても倒れない、ジャイロ効果の不思議、すごいぞ！＞

14 日は北高校で同テーマを実施。下田会員が指導員を務めました。22 日の本部教育センターは台風で中止となりました。

《スポイトロケット制作》

7. 同好会からのお知らせ

古典芸能鑑賞会　　池田ときえ

第 6 回佐久間二郎　能の会を鑑賞します。演目は、能「橋弁慶」「碇潜」、狂言「舟渡聟」です。

参加ご希望の方は池田(042-637-1503)までお申し込みください。

2 月 3 日(日)午後 1 時半開演
国立能楽堂 5,000 円

8. その他

第 38 回八王子いちょう祭りへの協力依頼

佐々木研吾

今年のいちょう祭りは 11 月 18、19 日です。18 日は 9 時から 17 時、19 日は 9 時から 16 時 30 分です。混雑の緩和と野球場のグラウンドを傷めないようにするために、今年はレイアウトが大幅に変わります。プロバス会員の皆様にお願いする受付案内の場所が去年までの場所と違っていますので、ご注意下さい。**陵南公園分園（南浅川右岸）の向かって右側。**世話役を岡本宝蔵会員にお願いしております。関所巡り通行手形頒布にもご協力をお願いします。

9. プロバス賛歌斉唱

10. 閉　会　　馬場副会長

本日の大澤会員の卓話「野菜をめぐる情勢」では、日頃は馴染みが少なく且つ国のレベルから見た貴重な情報を興味深く伺うことが出来ました。

また会長・幹事からの趣旨説明の後に当クラブの財政上の課題について「データ」及び「アンケート」が配布されました。本アンケートの期限は 11 月例会です。会員各位の真摯な意見展開をお願い致します。

今日は出席率が低く残念且つ心配ですが、12 月例会の出席率向上を期待します。

ハッピーコイン

◆脈拍 30 に落ち、緊急入院。命救われて帰宅しました。まだ安心できませんが、取敢えず祝。

渋谷　文雄

◆86 歳の誕生日を元気に迎えられたことを神様に感謝しています。楽しいプロバスライフもあと少し続けられるよう神様にお願いしています。

立川冨美代

◆八王子プロバスクラブの創立当時の古いお話をいたします。準備会からのメンバーは濱野会員と二人になりました。語り部としての責任を感じております。

立川冨美代

◆男声合唱団コール・プレアデス。はちおうじ緑化フェアイベントに出演、無事終了しました。

武田洋一郎

◆自費出版文化賞表彰式に夫婦で出席しました。

橋本　鋼二

◆今月は私の誕生月で池田会員よりお誕生日カードをいただけます喜びと、今回、後期高齢者のお仲間になりました。今後共、皆々様の御指導御鞭撻をよろしくお願いします。

岡本　宝蔵

◆また年を重ねます。

戸田　弘文

◆来週、紅葉の宇奈月温泉と大牧温泉で心を癒してきたいと思います。

有泉　裕子

◆小学校 1 年生の孫の運動会に行き、感動しました。①日野滝合小学校の芝生のグランドは素晴らしかったです。②孫の「はじめのごあいさつ」演台に立って 4 人で挨拶。間違いなく言えて、ほっとしました。

飯田冨美子

◆我がシニア・ダンディーズの指導者の畑野かん奈さんが、日野市立七生緑小学校を率いてＮＨＫ全国合唱コンクールを5連覇！これぞ快挙！　馬場　征彦

◆東京八王子プロバスクラブの次なる充実と飛躍に向けて、会員全員の前向きの一致協力を期待して。
田中　信昭

◆初めて樺太のコルサコフに行って来ましたが道路は凸凹、物資もなく、まずしい街でしたが町民は非常にフレンドリーでした。　野口　浩平

◆まだ後期高齢者には届きませんが、今月、古希になります。今後ともどうぞよろしくお願いします。
山口　三郎

◆孫たちが先月末から明日までニュージーランドから一時帰国で帰ってきています。北朝鮮や総選挙などを話題にできるほど成長していることを喜んでいます。　一瀬　明

寄　稿

テレビ出演と出版　竹元　正美

(1)テレビ出演

8月のはじめ頃、TBSのプロデューサーから電話があり、皇室関係の番組に出てほしいとの依頼がありました。マスコミからの取材などには原則として断らないようにと言われてきたこともあり、他に適当な人がいない場合にはお受けしますと答えました。

8月中旬に八王子にプロデューサーやディレクターさんなど数名の方が来られ、お話をしました。それを踏まえて何回かやり取りをして、8月28日にTBSで録画が行われました。

ジョブチューンという2時間番組ですが、途中休憩をはさみ4時間かかりました。私は、この番組を見たこともなかったので、スタジオの雰囲気に少し驚いた次第です。見学者も大勢おりました。

この2時間番組を制作する為に、プロデューサー始め100名以上のスタッフが関与しており、録画の4時間の間、スタッフの皆さんは立ったままでした。

9月16日に放映されましたが、放映後、プロデューサーさんから視聴率が良く、好意的なコメントが多く寄せられましたと連絡がありました。また、10月17日午後7時からのTBSテレビ「教えてもらう前と後」という番組にも出演しました。砧スタジオで

の収録で、池上彰さんと滝川クリステルさんとご一緒でした。収録したうち多

くの部分がカットされていました。その後、皇居周辺でのロケがあり、この番組が近いうちに放映される予定です。

(2)出　版

一方、9月22日に扶桑社から「皇室ってなんだ」という本を出版しました。何冊も出版している友人の女性の方が、本を出すのは出産するのと同じくらい大変ですと言っておりましたが、確かに骨の折れるものではあります。因みに、この女性は独身で出産の経験はないのですが！

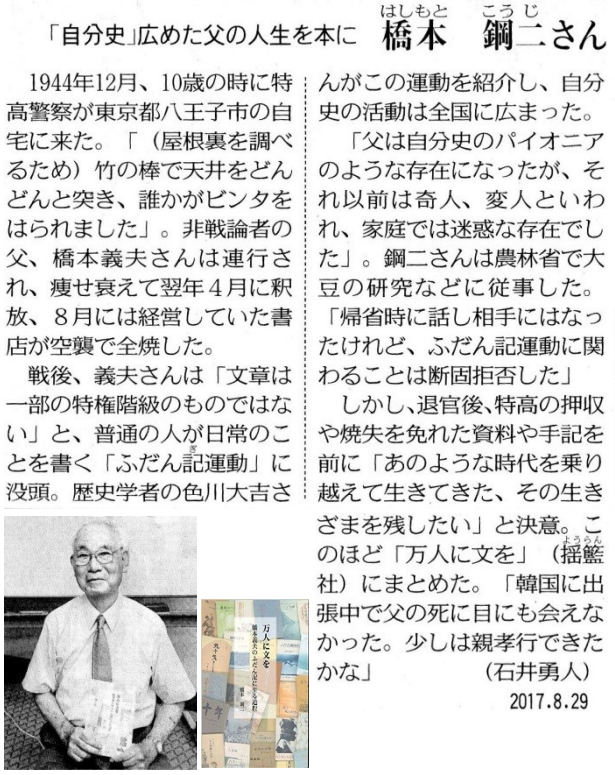
この本で皇室のおおよそのことを説明しました。ところどころに私の経験したこともちりばめました。

この本で一番伝えたかったことは、天皇陛下は、国民の喜びの時も悲しみの時も、国民と共に歩んでいらっしゃるということです。特に、天皇陛下は、いつも我々国民の幸せを祈って下さっているということです。まえがきの冒頭にこのことを書きました。

苦しい時も悲しい時も孤独に感じる時も、我々の幸せを祈って下さっている人がいるということを思い起こし、そして、立ち上がって前に向かって進んでほしいということです。

自費出版で本を出す　　橋本　鋼二

自費出版とは著者（等）が自分（等）で費用を出して出版することで、単行本もあれば、機関誌もあり、様々な形があるかと思います。私が関係している「ふだん記（ぎ）」を例にあげれば、全国各地にグループがあり、それぞれ年1、2回グループ誌を発行しています。いわば協同自費出版で各自が分に応じ費用を分担しています。詩歌のグループ誌などでも見られるのではないでしょうか。



「自分史」広めた父の人生を本に　橋本（はしもと）　鋼二（こうじ）さん

1944年12月、10歳の時に特高警察が東京都八王子市の自宅に来た。「（屋根裏を調べるため）竹の棒で天井をどんどんと突き、誰かがビンタをはられました」。非戦論者の父、橋本義夫さんは連行され、痩せ衰えて翌年4月に釈放、8月には経営していた書店が空襲で全焼した。

戦後、義夫さんは「文章は一部の特権階級のものではない」と、普通の人が日常のことを書く「ふだん記（き）運動」に没頭。歴史学者の色川大吉さんがこの運動を紹介し、自分史の活動は全国に広まった。

「父は自分史のパイオニアのような存在になったが、それ以前は奇人、変人といわれ、家庭では迷惑な存在でした」。鋼二さんは農林省で大豆の研究などに従事した。「帰省時に話し相手にはなったけれど、ふだん記運動に関わることは断固拒否した」

しかし、退官後、特高の押収や焼失を免れた資料や手記を前に「あのような時代を乗り越えて生きてきた、その生きざまを残したい」と決意。このほど「万人に文を」（揺籃（ようらん）社）にまとめた。「韓国に出張中で父の死に目にも会えなかった。少しは親孝行できたかな」　（石井勇人）

2017.8.29

＜東京新聞8月29日掲載＞

近年「自分史」をまとめ、単行本として出す人たちが多くなったと聞いています。商業出版のように出版社の意向を優先させる必要がないので、著者の自由にやれますが、独り善がりに陥ったり、アマチュアらしいミスが残って、画竜点睛を欠くことも少なくないのではと思います。NPO法人自費出版ネットワークでは、自費出版アドバイザーを認定して相談にのっているようです。

今年の春、父のライフヒストリーをまとめた本を自費出版しました。『万人に文を　橋本義夫のふだん記に至る道程』という題です。これは自費出版図書を多く手がけている、橋本義夫ゆかりの揺籃社で、父のことを修士論文にまとめた経験のある編集者が協力してくれたので、体裁も構成も納得できるものとなりました。

思いがけずその本が第20回日本自費出版文化賞の地域文化部門賞を受賞し、10月7日表彰式に出席しました。同賞には地域文化、個人誌、小説、エッセー、詩歌、研究評論、グラフィックの7部門があり、応募点数は566点でした。

会場には今回の入選作品を含め、今までの入賞作品の展示もあり、自費出版の多様性と奥深さを体感しました。

大賞は『シベリヤ』で抑留体験を三部作としてまとめた大作、研究評論部門は『庶民が描く暮らしの記憶　ーふるさとを共有する「現代絵農書」』で高度成長期以前の農作業の姿を大学卒業後10年余の女性がまとめたもの。グラフィック部門の『パパの柿の木』は、日航ジャンボ機墜落事故で夫を亡くした女性が夫の植えた柿の木と遺児たちが育っていくストーリーを美しい絵本にしたもので心に残りました。特別賞としては『徳島県塩業写真資料集』が地図や写真・古文書などを集め、かつて盛んだった地域産業の記録としての意義を感じました。

特別賞、部門賞、大賞の著者はそれぞれ数分のスピーチで、本作りでの思いを語っていましたが、出来上がった喜びはほぼ共通しているようでした。

今年出典のごく一部について触れただけですが、流通が限られる自費出版の中に、様々なジャンルで魅力ある図書が含まれていることを過去の入選作品の展示などからも知りました。

〈 筆者の本（後列右から2冊目）〉

私と中国　　持田　律三

中国では1989年6月4日に天安門事件が起きた。実は中国では同じような事件がそれより13年前の1976年にも天安門で政治衝突が起きていた。しかしその後、中国が民主化・近代化を順当に進めてきており安心し始めていた時期に起きたのがあの天安門事件となったので、衝撃であった。

天安門広場を占拠していた学生や若者たちを中国軍が武力行使を行い多くの民衆を殺害したのである。

私はその頃そろそろ中国をアジアの巨大市場になるであろうと考えつつ、マーケット開拓の手がかりを探していた時期でもあったが、さすがに、この事件で中国大陸への展開に二の足を踏んだ。

それから、待つこと 3 年、沈静化が進み経済面でも通常の活動が見られるようになった。そして、私が初めて中国を訪問したのは 1992 年であった。

先ず、北京で国際工業展示会があるという誘いがあり、その話にのった。私の会社の業種は自動車生産ライン用溶接機器であった。日本からはグループ参加で 10 数社がそのひとコマを借りた形であった。

当時はまだ紅衛兵帽子をかぶっている市民もちらほらいた。地元中国のブースには「紅旗」という中国第一汽車（汽車とは中国では自動車）という最大の自動車会社製造の最高級車が展示されていた。総重量 2 トンもありそうな重そうな車であった。

専門分野の展示会であること、また工業化が進んでいないので来場者は少ないのだろうと思っていたら、大間違いであった。週末などは市民が家族連れで小さな子供も年寄りも来場し、行楽の機会になっていたようである。一日中めずらしいものを無料で見て過ごせる場所なのだ。

私の展示ブースでは受付で簡単な販促品としてチラシと鉛筆やボールペンを渡すようにした。すると、そのことがみるみる知れ渡り、受付前に長蛇の列ができた。無料でもらえるものがあるというので、たくさんの人が群衆となり、受付の台が押し倒される始末になった。3 日分のチラシも販促品も 1 日で無くなってしまう程の盛況というか混乱であった。

日本の数倍の人が無秩序に押し寄せるので、不気味を感じた。まさに中国市場について未知による凄さと怖さを垣間見た初日となった。

このような展示会をきっかけに中国のビジネスに関わり始めた。当時の中国は日本の昭和 40～45 年頃を思わせるような熱気のあるマーケットに見えた。そこで、私は中国事情については、そもそも資料も情報も少なく、知識がなかったので、まずはビジネスパートナー探しをすることを考えた。

知人経由で多くの中国人を紹介され彼らと面会をした。同時に市場調査も進めて行ったが、中国を知れば知るほど対等なパートナーを探すことが困難であることが徐々に分かってきた。

〈 1993 年北京天安門広場 〉一番左が筆者

パートナーと合弁で会社をつくった場合、利益が残ればその利益処分をどうするか、フェアーに扱ってくれるのか。また、逆に利益がうまく出せない時はどういう処理になるのか、何人もの中国経営者に会ってもこちらの意と合うような回答はもらえなかった。2 年経ても進まないので、結局私はパートナー探しを止めて独資会社を設立することにした。つまり、中国に現地法人会社を単独出資で設立する準備を始めた。1995 年のことである。（次回に続く）

そんなメキシコが大好き！　　山口　三郎

メキシコは我が国にとって非常に馴染みの深い国の一つである。

ＮＡＦＴＡ（北米自由貿易協定）のこと、地震のこと、マヤ・アステカ文明のこと、美味しい料理、素晴らしいリゾートのことなど感じる事はたくさんある。

私はこの国に 1997 年から 3 年 2 か月在勤した。

古くは支倉常長一行がスペイン、イタリアローマに派遣された際、メキシコを経由して訪欧しており、メキシコシティーには常長の滞在した宿泊先が公開されている。それなりの歓待を受けた様である。

因みに到着地であるアカプルコや寄港地キューバ・ハバナには立派な常長像が建立されている。

さて、日墨技術協力協定に基づき数多くの事案、プロジェクトを実施して来たがその事は別の機会に譲り、今回はこんなエピソードを紹介したい。

世界中で、就中、北中米大陸ではいろんな生活場面でチップを必要とする。中でもメキシコのそれはとにかく強烈である。他の中南米諸国に比してそれは大変。特にレストランではそもそもチップを得ることを前提として一般的に基本給与水準は低く抑えられているようだ。従ってサービス精神の旺盛なる者は結構なサラリーを稼ぐことになる。

こんな事があった。在勤したての頃、有名ホテルで食事「ごちそうさま」とそのままサインを済ませてすたすたと外へ。するとサーブしてくれた男が追いかけて来て大声で「セニョール、チップを忘れているよ」と叫ばれた。会釈をしてそれなりに払った次第。それにしても世の中のしくみはうまく出来ているものです。

メキシコ人に道を尋ねる。決して知らないとは言わない。少し斜に構えて考えそしてここから東の方へ三丁行った角を右に曲がった所が貴方の探している場所と言う。行ってみたがどうも違う。分からないのでまたそこで聞く。すると今度は南へ下れと言う。結局目的地にたどり着けなかったことが多々ありました。

赤信号の前で待っているアジア人を見てメキシコ人は「あれは間違いなく日本人である」と言う。車が通っていないと信号無視が当たり前の彼らにとって青になるまで待っている規則礼儀正しい人間は日本人に違いないと言ったことになるが「なるほど」と納得した次第である。

昨今、アメリカによるＮＡＦＴＡの見直しが叫ばれている。このＮＡＦＴＡの利点を得て我が国の裾野産業を含む自動車産業は、日墨双方にとって大変重要な位置づけとなっている。私がいた当時、日本からの進出企業は 250 社程度に留まっていた。最近の統計によると既に全土に亘って 1,000 社を越えていると言う。官民を挙げてのこれまでの様々な協力が花開いている今、今後の展開がどうなっていくのか大いに気になるところである。

10 月 22 日に台町市民センターの依頼で行われたプロバス出前講座、**「お茶の会」**は大好評で満席だったそうです。記事や写真は次号に詳しく掲載しますのでどうぞお楽しみに。
次号は**野外研修報告**もたくさん掲載します。

俳句同好会便り

私の一句～十月の句会から

河合　和郎

俳句同好会の月例会も早や 70 回を数えようとしている。当初、手探りだった句づくりも、今や新聞俳壇に入選する作品も。さて、今月の一句は。

せきれいの小走る影や遊歩道　　馬場　征彦

鶺鴒の可愛らしい行動をきれいにまとめた。俳句は一瞬間を見逃さない観察眼が命。

新蕎麦や湯割り焼酎友にして　　渋谷　文雄

悠々自適の生活ぶりを一句に。季節良し、新蕎麦の味良し、焼酎旨し。言こと無しの秋の暮れ。

甲斐犬と小女駆けゆく野分中　　山形　忠顯

性質の荒い猛犬と少女との取り合わせの妙がこの句の命。「野分中」の舞台の設定もうまい。

古民家や秋の陽あたる手水鉢　　東山　　榮

古民家の佇まいの中に古き良き時代を偲ぶ作者。手水鉢に焦点を当てたのも成功。

稲架襖長き影引く棚田かな　　矢島　一雄

刈り取った稲を干す稲架が襖のように連なった秋の田園風景。心の故郷を写真的に切り取る。

ふり返り立ち止まりして金木犀　　池田ときえ

金木犀の花の香りが匂い立つような一句。動作だけで香りを表現したテクニックが心憎い。

手の平を俎板にして新豆腐　　田中　信昭

台所の一風景だが、俳句の主が作者自身かどうかは定かでない。日常のふとした動作を一句に。

サルビアのひしめきあいて秋暑し　　飯田富美子

夏を彩る情熱的な花も、秋を迎えて何となく鬱陶しく感じる作者。「秋暑し」にその情感が。

まんずよか義母の訛りや秋の旅　　立川冨美代

「まんずよか」は山形弁とか。方言の持つ味わいを俳諧味たっぷりにまとめた。ほんによか句。

赤とんぼ翅に夕陽の光りのせ　　河合　和郎

赤とんぼの透明な翅に夕陽がキラキラと反射していた。最近は蜻蛉の姿も少なくなり、淋しい限り。

編集後記：今回、私にとっては初めての編集作業、ワードが苦手なので、どうなる事かと不安でしたが、情報委員会の方々のサポートを頂き、何とか編集作業を終えることが出来ました。

白柳　和義